

# 赤平市市制60周年記念歌

作詞 志田 敏彦  
作曲 板垣登喜雄

1. 赤平を潤すごとく空知川  
独歩も佇み 夢を見し  
豊かな流れ 永久に変わら  
ず 転ずれば美しき自然古来から  
四季の彩りくつきりと  
心と和ます 住みて良きまち
2. 赤平に天与の恵み 黒ダイヤ  
まちは活気に満ち満ちて  
若さ漲る 都市生まれたり  
世は移り 閉山の嵐吹き荒れて  
市民挙りて支え合い  
耐え抜く心 たくましまち
3. 数知れぬ汗と涙のズリ山に  
願いと祈り赤々と燃やし続けて幾星霜  
やがて 新しき物づくりの技育ち  
蘭の花咲くまちとなり  
今しエルムの高原に炭鉱の遺産の像蘇える  
まぎれもなく わが赤平はここにあり  
激動の歴史乗り越え 還暦の年迎えたり  
そこに芽生えし愛郷心 今こそ市民結集し  
「夢と希望をつなぐまち」  
目指して共に共に歩もう

平成26年4月30日、今年赤平が市となって60周年を迎えるため、記念の歌の歌詞製作を赤平短歌連盟の会長でもある志田氏へ依頼しました。志田氏は、赤平市へ移り住んでから60年目ということもあり、何かの縁と感じ快く引き受けて頂きました。



志田敏彦氏

## 市制60周年記念歌

### 作成の依頼を受けて

記念歌の歌詞は、一般的には、記念の祝歌、あるいは讃え歌と決まっていますが、私には、もう一つの意図とするものがありました。

それは、現在の赤平にとって最大の厳しい社会環境に直面していることでもあります。

市民の皆さんもご承知のように、特に昨年来から「市町村が消える」「人口減少社会」云々

と呼ばれ、2040年には、全国的に、そして「空知」では軒並みに人口5割減少の予測が新聞に出ています。

もちろん各市町村の行政や議会は、真剣になって対応策にあたってはありますが、私はそれと一緒に、市民の心も結集して、この難関に立ち向かわなければならぬと、常日頃から考えていました。

その時期に「記念歌」の依頼が重なったこともあり、歌詞の三節にその思いを込めました。

また、60年は、還暦にあたり、元に戻って再生を寿ぐという日本のしきたりになぞらえた思いも表現しました。

